

十五年戦争 極秘資料集

昭和三十一年刊行の海軍兵学校第三七期クラス会制作による文集『海軍生活の思い出』を復刻。
井上成美、大川内伝七、小沢治三郎、草鹿任一らを輩出した第三七期は、入手できる同種の
文集として最古期であり、海軍の実情を知るために大変貴重な資料である。

補巻51

海軍兵学校第三七期クラス会誌『海軍生活の思い出』

全一冊

沖田恭祐 解説

体裁—B5判・上製・総468頁

解説・原本提供—沖田恭祐（日本大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程）

価格—本体揃価格19,000円+税 ISBN 978-4-8350-6874-9

不二出版

『海軍兵学校第三七期クラス会誌』 推薦文

古川隆久（日本大学文理学部教授）

海軍兵学校第三七期生一七九名は、日露戦争直後の一九〇六年に兵学校に入学し、第一次世界大戦や軍縮期を経て昭和初期までに海軍を支え、一部は太平洋戦争期まで活躍した。この期で最も著名な人物は井上成美である。日中戦争期の海軍省軍務局長としてドイツとの軍事同盟に反対し、太平洋戦争期にも第四艦隊司令長官や海軍兵学校長、海軍次官を歴任した。一九三七年の第二次上海事変時の上海特別陸戦隊司令官大川内伝七、最後の連合艦隊司令長官小沢治三郎などもいる。

本史料は、クラス会誌という性質上、外部向けの発言や文章では現れない、関係者の回想や心情が表れているという意味で大きな史料的价值がある。兵学校時代の思い出が中心となっているが、佐藤正四郎「二・二六事変の回顧」のように、岡田啓介首相の生存確認に関する、公式記録に現れない秘史が綴られたり、北川茂春「私の海軍生活」のように、途中から技術将校に転じた人物が科学技術面から海軍の欠点を具体的に指摘するものもある。海軍退職後や敗戦後の生き様や思いをつづったものも数多い。さらに、遺族（妻）の寄稿がいくつもあるのも貴重である。もちろん井上成美も長文の寄稿をしている。

本史料は、日本海軍を、勤務していた人やその家族の側から考える手がかりとしてだけでなく、そうした人々が戦後日本でどのような思いを抱いて生きていたのかを知る手がかりとしても大変貴重な史料であり、広く研究者に向けて公刊されることの意義は大きい。

前編より井上成美「英語の小説」（兵学校時代の思い出）
『英語の小説』は、成美が兵学校時代に読んだ小説の感想文である。成美は小説が大好きで、兵学校時代に読んだ小説は、ほとんど全部が英語の小説であった。成美は小説を通じて、海外の文化や生活を知り、自分の心を豊かにした。この文章は、成美が読んだ小説の感想文をまとめたものである。成美は、小説を通じて、海外の文化や生活を知り、自分の心を豊かにした。この文章は、成美が読んだ小説の感想文をまとめたものである。

第二章私の海軍に対する見方
『私の海軍生活』は、成美が海軍生活について語った文章である。成美は海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、成美が海軍生活について語った文章をまとめたものである。成美は、海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、成美が海軍生活について語った文章をまとめたものである。

続編より北川茂春「私の海軍生活」（海軍を通して光学兵器開発に関わった話、自分の感じた海軍の失敗した一面）
『私の海軍生活』は、北川茂春が海軍生活について語った文章である。北川は光学兵器の開発に関わった。この文章は、北川が海軍生活について語った文章をまとめたものである。北川は、海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、北川が海軍生活について語った文章をまとめたものである。

前編より片原みどり「亡夫の終戦から最後までのお出」（夫との話、原爆に遭遇した時の同期生との関わり）
『亡夫の終戦から最後までのお出』は、片原みどりが夫との話について語った文章である。片原は原爆に遭遇した。この文章は、片原が夫との話について語った文章をまとめたものである。片原は、夫との話を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、片原が夫との話について語った文章をまとめたものである。

思い出
『思い出』は、成美が海軍生活について語った文章である。成美は海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、成美が海軍生活について語った文章をまとめたものである。成美は、海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、成美が海軍生活について語った文章をまとめたものである。

続編より小沢治三郎「思い出」（一九一七年の水雷艇長、一九二一年の駆逐艦長時代）
『思い出』は、小沢治三郎が海軍生活について語った文章である。小沢は水雷艇長、駆逐艦長を務めた。この文章は、小沢が海軍生活について語った文章をまとめたものである。小沢は、海軍生活を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、小沢が海軍生活について語った文章をまとめたものである。

前編より佐藤正四郎「二・二六事変の回顧」（二・二六事件時に岡田啓介首相の無事を確認した話）
『二・二六事変の回顧』は、佐藤正四郎が二・二六事件について語った文章である。佐藤は二・二六事件時に岡田啓介首相の無事を確認した。この文章は、佐藤が二・二六事件について語った文章をまとめたものである。佐藤は、二・二六事件を通じて、多くのことを学び、成長した。この文章は、佐藤が二・二六事件について語った文章をまとめたものである。

Table with 2 columns: Author (著者) and Title (題名). It lists various authors and their titles from the collection.

続編より「愛称・ニックネーム渾名調べ」

収録概要(解説より抜粋)

前編

青柳宗重(少将)：連合艦隊兼第一艦隊参謀時代(一九二四年から一年間)、兵学校時代の思い出
飯倉貞造(少将)：兵学校時代、樺山可也と松本正教官との思い出
一法師喜雄(大佐)：一九一八年「三笠」乗組の話、一九一七年筑波乗組時の加藤寛治との思い出
井上成美(大佐)：兵学校時代の思い出(伝記に収録)
岩崎とめ(少佐)：兵学校、練習艦隊時代の同期生との思い出
石黒鶴江(石黒虎雄少将夫人)：岩崎大助の話、キリスト教信仰についての話
浮田秀彦(中尉)：兵学校時代の失敗談、スエズ運河を三回通った時の思い出
上村英代(上村真琴少佐夫人)：上村真琴との思い出
大川内伝七(中尉)：兵学校、練習艦隊時代に自身の不器用さで失敗した話
大久保一櫻(少佐)：一九二二年、特務艦「勇山」が遭難した時の話
太田泰治(中尉)：兵学校受験時の話、海軍勤務の思い出
大橋五郎(大佐)：兵学校時代と教官の話、練習艦隊時代の思い出
大島ウラ(大島信成少佐夫人)：一九二二年に進んで海軍を退任した夫の話
岡本綱(大佐)：兵学校時代、一九一七年、第一次大戦時の巡洋艦「新高」の話
尾崎多満(尾崎篤郎大佐夫人)：家族の話
春日末章(大佐)：兵学校時代の話、練習艦隊時代の教官への悪口
片原みどり(片原常次郎少将夫人)：夫との話、原艦に遭難した時の同期生との関わり
加藤仁太郎(少将)：一九三五年、呉港務部時代の話(遺稿)
加藤ハル(加藤仁太郎夫人)：詩作
岸本鹿子治(少将)：兵学校時代に樺山可也教官に殴られた話、練習艦隊時代の思い出
北川茂春(少将)：練習艦隊時代の話
草鹿任一(中尉)：海軍航空隊黎明期の搭乗員であった同期の阿部新治中尉の思い出
桑原虎雄(中尉)：三十七期生と海軍航空隊の話
窪純子(窪次郎大尉夫人)：近況について
桑折英三郎(中尉)：練習艦隊時代の思い出
小橋義亮(大佐)：兵学校での樺山可也教官の思い出
小橋行(少将)：同期生である北白川宮輝久王(小松輝久)との思い出、鈴木貫太郎の話
小林三良(大佐)：三六期から三七期へ編入してからの兵学校の話、一九二七年の大演習に参加した時の思い出
小松輝久(中尉)：一九二四年に桐花大勲章を落としてしまった話
斎藤音治郎(大佐)：兵学校時代の思い出
斎藤正四郎(少将)：二・二六事件時に岡田啓介首相の無事を確認した話
佐藤雅人(大尉)：兵学校入校時の分隊の話
佐倉敏郎(大佐)：一九四四年九月、監督官時代の話、石黒虎雄の事
佐倉武久(佐倉武夫少将夫人)：家族の近況
坂部栄枝(坂部省三少将夫人)：兵学校教官時代、開戦の日の話
杉沼ヨシコ(杉沼親比少佐夫人)：夫の話
鈴木千歳(鈴木貫少佐夫人)：一九〇六年に兵学校に行った話
千歳茂美(少佐)：阿部新治の思い出
竹崎武雄(大佐)：兵学校時代の思い出
谷山国彦(大佐)：戦後の自身の信仰について
田中正太(田中正英中佐長男)：予備役後の父の回想
寺沢市太郎(少佐)：海軍兵学校、練習艦隊の思い出、塚本克隆大佐との思い出
戸部隆始(中尉)：一九二二年に仏国駐在武官補佐官時代の思い出
中村一夫(少将)：海軍兵学校、少尉時代、第一次大戦の思い出
中山道源(少将)：練習艦隊時代の失敗談
日台ゆき(日台虎治少将夫人)：主人の思い出
福田均三(大佐)：一九一二年から二年間の巡洋艦「対馬」での思い出
松本益吉(中尉)：練習艦隊時代の失敗談、伊勢、副長時代の思い出
三並貞三(少将)：兵学校時代の思い出
三並貞三(少将)：兵学校時代に受けた銃撃制敵の思い出、一九三九年の名古屋監督長時代の思い出
山田謙(少将)：海軍兵学校入校を決意した話と入校直後のクラスとの思い出、「室戸」艦長時代の思い出
山田その(山田梅蔵少佐夫人)：主人のこと
横山茂(大佐)：兵学校時代、教官の思い出

続編

六村為樹(大佐)：練習艦隊での教官と仲の悪かった話や古賀第一指導官附との思い出
渡辺ゆう(渡辺謙一少佐夫人)：主人のこと
松本久代(松本青二少佐夫人)：主人と同期生との思い出
岩上維精(追加)：兵学校から少尉候補生に至るまでの思い出
不明：加藤寛治と飛鳥節雄とのエピソード
青柳宗重：一九一八年に「河内」沈没を目撃、「三笠」沈没の原因について聞いたこと、一九三六年の「開宮」特務艦長時代に乗り上げた話と「常盤」艦長時代に曳航した「見島」が沈没した話、一九一六年の「笠置」座礁の様子、一九二二年からの三年間に艦本部員として無線通信に尽力した話
赤穴敏一(大佐)：第二次大戦中、船団指揮官として出征した同期生との話
飯倉貞造：一九一九年の無人飛行機が相模湾を横断飛行した話の真相、金子善三少将の思い出
一法師喜雄：一九一九年の「三笠」分隊長時代、ウラジオ警備で陸隊指揮官として警備した話
井上成美：開戦前から終戦までの海軍中央部の動き(伝記に収録)
岩上維精：練習艦隊時代の教官の話、「三笠」副官候補時代の話、日独戦のおり加藤寛治との一幕、関東大震災の時の久保夫妻の思い出
岩崎とめ(岩崎大助夫人)：信仰の話
浮田秀彦：一九三二年の第七潜水隊司令時代に伊二号潜水艇で危うく死にかけた話
宇佐美治作(大佐)：一九一七年、砲艦「陸奥」乗組の思い出
大川内伝七：支那方面艦隊参謀長時代の思い出
大久保一櫻：全編英文での思い出
大槻季雄(大尉)：一九一五年、「安芸」乗組時代に海に落ちた話
大橋五郎：太平洋戦争中に経験した中国での密輸の話、油送船指揮官の思い出、福岡在勤
武官の話
岡本綱：兵学校時代の思い出
小沢治三郎(中尉)：一九一七年の水雷艇長、一九二一年の駆逐艦長時代
岸本鹿子治：一九三一年の艦本部二課長時代、酸素魚雷や特殊潜水艇の開発改良に邁進した話、一九四四年に海軍をやめて三菱重工重役時代にロケット開発をやった話、ロンドン海軍軍縮会議の一幕、一九三四年の北支兵器開発、同期生の自叙について
北川茂春：海軍を通して光支兵器開発に関わった話、自分の感じた海軍の失敗した一面
草鹿任一：南東方面艦隊司令官官時代
工藤泉介(中佐)：第一次大戦の時に「石見」乗組として戦った話
小橋義亮(大佐)：一九三〇年、「安芸」艦長時代の思い出
小橋行(少将)：練習艦隊で「宗谷」のベツキ組を二ヶ月遅らされた話の内幕、ベツキ組の海軍生活
小林三良：一九一八年から一九三〇年にかけての潜水艇の技術面からの思い出
小松輝久：一九四二年、第六艦隊司令官官時代に感じた敵の通商破壊戦について、太平洋戦争中の海戦の話
斎藤音治郎：戦後の話
斎藤正四郎：同郷の山本元帥の伝記を作った話、良寛を主題として同郷の繋がりについて
佐藤雅人：河内乗組時代に沈没を経験した話
実吉敏郎：練習艦隊時代の話
鈴木新治(少将)：練習艦隊時代の話
竹崎武雄：戦後に関西九州方面の級友と会った話
谷山国彦：海軍生活全般の思い出
寺沢市太郎：日露戦後、負けるまでの所感、生方乙彦の話
寺田祐次：一九三九年に上海にあった中国海軍の学校で教官として派遣された話
福田均三：一九一八年、フランスの観戦式に参加した話
藤森清一朗(少将)：自身の海軍生活を振り返って話
藤江亥之吉(大佐)：練習艦隊時代の中島権吉少将との話、一九二五年の加藤寛治との話、水野孝吉のこと
松本康生(少佐)：武官時代に飛行機に選ばれた経緯、海軍を辞めてから移住した上海での級友との思い出
三並貞三(少将)：兵学校時代の俱樂部での思い出
戸部隆始：仏国駐在中にシブラルタルを視察した思い出、薪割と乗馬の話、第一次大戦中「河内」の信号書がなくなった話
中村一夫：阿部新治の思い出、兵学校時代に居眠りをよくして井上成美に迷惑をかけた話、兵学校時代に倶楽部でやったの自慢大会と級友、一九一三年にメキシコ革命の時に「出雲」で警備した話、第一次大戦中の話、兵学校での英語教育が役に立った話、「対馬」艦長時代の失敗談
中山道源：練習艦隊時代の話
早川定三(少佐)：兵学校時代の級友との一幕
三並貞三(少佐)：バネ号事件について責任者として見た真相
山田謙：勤務録についての話、一九一三年に辛亥革命を見た話
山口利隆(少佐)：兵学校時代の「八雲」乗組時代の思い出
横山茂：練習艦隊時代の思い出
不明：鈴木貫太郎自伝の引用と、それに関するエピソード

●十五年戦争極秘資料集

補巻①～⑤

<p>① 毒力入戦教育関係資料 内藤裕史 編・解説 ISBN78-4-8330-1031-1 1,8,000円</p>	<p>② 東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査 金子 俊 編・解説 ISBN78-4-8330-1067-7 12,000円</p>	<p>③ 陸軍軍医学校防疫研究報告 全8冊・別冊1 第7号一 解説 全10冊 ISBN78-4-8330-5375-2 161,000円</p>	<p>④ 「合作社事件」関係資料 全2冊 「合作社事件研究」解説 全2冊 ISBN78-4-8330-5352-2 40,000円</p>	<p>⑤ 海軍軍法会議判例類集 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-8851-4 1,000円</p>
<p>② 毒力入戦関係資料Ⅱ 吉見義明・松野誠也 編・解説 ISBN78-4-8330-1032-8 1,8,000円</p>	<p>④ 関東軍参謀部作成総動員関係調査資料 永島勝介・安富 歩 編・解説 ISBN78-4-8330-1064-4 8,500円</p>	<p>⑥ 山東出兵時における「第三師団特種研究記事」 福島幸宏 編・解説 ISBN78-4-8330-4232-8 20,000円</p>	<p>⑦ 情報 全9冊・別冊1 三好 章 解説 全10冊 ISBN78-4-8330-5352-2 130,000円</p>	<p>⑥ 陸軍軍法会議判例類集 全2冊 北 博昭 編・解説 全2冊 ISBN78-4-8330-8862-7 3,000円</p>
<p>③ 思想彙報Ⅱ 荻野富士夫 編・解説 ISBN78-4-8330-1033-5 15,000円</p>	<p>⑤ 軍律法廷審判例集 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1041-1 8,500円</p>	<p>⑦ 宣撫月報 全8冊・別冊1 山本武利 解説 全10冊 ISBN78-4-8330-5845-4 145,000円</p>	<p>⑧ 南满洲鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊 芳井研一 解説 ISBN78-4-8330-5352-2 12,000円</p>	<p>⑦ 総力戦研究所関係資料集 全8冊・別冊1 豊澤太郎・中村隆博 解説 全10冊 ISBN78-4-8330-8859-9 15,000円</p>
<p>④ 戦時下国民栄養の現況調査報告書(昭和18年) 金子 俊 編・解説 ISBN78-4-8330-1034-2 15,000円</p>	<p>⑥ 南方方面海軍資料 野田勝久 編・解説 ISBN78-4-8330-1061-8 9,500円</p>	<p>⑧ 五・二五事件期憲兵司令部関係文書 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1035-9 12,000円</p>	<p>⑨ 陸軍経理学校五十年史 全3冊 中野 良 解説 全3冊 ISBN78-4-8330-5352-2 30,000円</p>	<p>⑧ 台湾総督府第六十回帝国議会説明資料 全5冊 河原 功 解説 全5冊 ISBN78-4-8330-1036-6 10,000円</p>
<p>⑤ 第2次上海事変における第九師團軍部陣中自誌 野田勝久 編・解説 ISBN78-4-8330-1035-9 18,000円</p>	<p>⑦ 陸軍に於ける花柳病 早川紀代 編・解説 ISBN78-4-8330-1036-6 9,500円</p>	<p>⑨ 関東軍化学部・毒力入戦教育演習関係資料 松村高夫・松野誠也 編・解説 ISBN78-4-8330-5352-2 20,000円</p>	<p>⑩ 「研究蒐録 地図」全3冊 小林茂邊・理裕 解説 全3冊 ISBN78-4-8330-5352-2 54,000円</p>	<p>⑩ 迫撃第五大隊毒力入戦関係資料 松野誠也 編・解説 ISBN78-4-8330-8851-5 20,000円</p>
<p>⑥ 瀋陽機件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1036-6 9,000円</p>	<p>⑦ 毒力入戦教育関係資料Ⅱ 内藤裕史 編・解説 ISBN78-4-8330-1037-3 8,500円</p>	<p>⑩ 資料集成 戦争と障害者(第一期)全7冊 清水 寛 編 全7冊 ISBN78-4-8330-5352-2 140,000円</p>	<p>⑪ 東京時事資料月報 芳井研一 解説 ISBN78-4-8330-8871-7 12,000円</p>	<p>⑪ 台湾議会設置関係書類 若林 正文 解説 ISBN78-4-8330-8870-0 10,000円</p>
<p>⑦ 韓国併合始末 関係資料 海野福寿 編・解説 ISBN78-4-8330-1037-3 9,000円</p>	<p>⑩ 十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1038-0 9,000円</p>	<p>⑫ 陸軍省「調査彙報」全5冊・別冊1 松野誠也 編・解説 全6冊 ISBN78-4-8330-5352-2 76,000円</p>	<p>⑫ 特調班月報・通訳 全4冊 三好 章 解説 全4冊 ISBN78-4-8330-5352-2 64,000円</p>	<p>⑫ 海軍兵学校第七期之ミズ森 海軍生のおいで 全冊 沖田 恭祐 解説 ISBN78-4-8330-8871-5 10,000円</p>
<p>⑧ 軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松関係文書Ⅱ 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1038-0 9,000円</p>	<p>⑫ 日本占領下海における日中要人インタビューの記録 高橋博文 編・解説 ISBN78-4-8330-1039-7 9,000円</p>	<p>⑬ 外邦測量沿革史 草稿 全4冊・別冊1 小林 茂 解説 全5冊 ISBN78-4-8330-8271-2 113,000円</p>	<p>⑬ 大阪府特高警察関係資料「昭和二〇年」 塚崎品之 解説 ISBN78-4-8330-8871-2 20,000円</p>	
<p>⑨ 南方地域現地自活教本 野田勝久 編・解説 ISBN78-4-8330-1039-7 10,000円</p>	<p>⑬ 満洲国軍ノ現況 松野誠也 編・解説 ISBN78-4-8330-1040-4 1,8,000円</p>	<p>⑭ 大同保育隊報告 藤野 豊 編・解説 ISBN78-4-8330-8271-2 15,000円</p>	<p>⑭ 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-8871-7 19,000円</p>	
<p>⑩ 戦後の自軍 重松憲兵少佐綴 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-1040-4 9,000円</p>	<p>⑭ ベンゾリン不正輸入事件関係資料 倉橋正直 編・解説 ISBN78-4-8330-1041-1 8,500円</p>	<p>⑮ 戦場心理の研究 全4冊 岡田靖雄 解説 全4冊 ISBN78-4-8330-1042-8 33,000円</p>	<p>⑮ 内外地憲兵隊にみる検閲録成 北 博昭 編・解説 ISBN78-4-8330-8871-7 20,000円</p>	
<p>⑪ 二反長首蔵・アヘン関係資料 倉橋正直 編・解説 ISBN78-4-8330-1041-1 9,000円</p>	<p>⑮ 終戦後の法令制定・改正・廃止経過一覧 茶園義男 編・解説 ISBN78-4-8330-1042-8 9,000円</p>	<p>⑯ 満洲事変日誌記録 全3冊 芳井研一 解説 全3冊 ISBN78-4-8330-8271-2 33,000円</p>	<p>⑯ 戦時下政治行政活動史料 五冊(一四四至一四八) 古川隆久 編・解説 全5冊 ISBN78-4-8330-8871-7 57,000円</p>	

表示価格は全て税別

不二出版

〒112 0005 東京都文京区水道二丁目一〇一〇
TEL 〇三―五九八―一六七〇四
FAX 〇三―五九八―一六七〇五
振替 〇〇一六〇―二一九四〇八四